

形 式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	悪性黒色腫	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Risk factors for nodal recurrence after lymphadenectomy for melanoma	
	論文の日本語タイトル	悪性黒色腫における所属リンパ節切除後のリンパ節における再発にかかわる危険因子	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	MMCQ13-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1 つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（IV）	
	Pubmed ID	11258774	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ann Surg Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	8	
	号	2	
	ページ	109-115	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2001 Mar	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Pidhorecky I	Roswell Park Cancer Inst, USA
	その他著者 1	Lee RJ	同上
	その他著者 2	Proulx G	同上
	その他著者 3	Kollmorgen DR	同上
	その他著者 4	Jia C	同上
	その他著者 5	Driscoll DL	同上
	その他著者 6	Kraybill WG	同上
	その他著者 7	Gibbs JF	同上
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	メラノーマのリンパ節転移切除（予防的廓清の結果、顕微鏡的転移が陽性のもの、あるいは根治的廓清施行）後のリンパ節における再発の危険性、予後に関する検討（術後放射線療法非施行）	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	米国の癌研究施設	
	対象者	1970-1996 年に施行された予防的あるいは根治的リンパ節廓清にて転移陽性であった 338 人のメラノーマ患者（予防的廓清で顕微鏡的転移陽性のもの 85 人と根治的廓清 253 人）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （2）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （3）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （22）	
	介入（要因曝露）	所属リンパ節廓清	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
	1	所属リンパ節における転移の再発率	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	2	所属リンパ節における転移の再発に 関与する危険因子の解析	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	3	廓清所属リンパ節における転移再 発に対する 2 回目の廓清の効果	1.主要 2.副次 3.その他（2）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	1) 廓清後のリンパ節における再発は予防的廓清群で 14%に、根治的廓清群で 28%にみられた（ $P=0.009$ ）。 2) リンパ節転移の再発に関与する危険因子としては、高齢者、頭頸部原発、厚い原発巣、リンパ節転移の個数、リンパ節被膜外への浸潤が挙げられた。 3) 各リンパ領域において、予防的廓清群の方が根治的廓清群よりもリンパ節での再発率が低かった。 4) 予防的廓清群に比べ、根治的廓清群の方がリンパ節転移が大きく、転移の個数も多く、被膜外浸潤も高率であった。 5) 疾患特異的 10 年生存率は予防的廓清群が 51%、根治的廓清群が 30%であった（ $P=0.0005$ ）。 6) 廓清後のリンパ節転移での再発は、遠隔転移の出現と有意に関連し、再発陽性の者は 87%に、陰性のものは 54%に遠隔転移が生じた	

		($P < 0.0001$)。 7) リンパ節転移再発が単発性であった 6 例には再廓清術が施行され、うち 5 例の無病期間中央値は 79 カ月であった。
	結論	リンパ節廓清後、腫瘍量が大の場合（厚い原発巣、多数のリンパ節転移、リンパ節被膜外浸潤）、高齢者、頭頸部原発の者は再発の危険性が有意に高く、生存率が有意に低い。廓清リンパ節での再発が単発の場合には、2 度目の廓清によって救命できる可能性がある
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	斎田俊明
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV） 信頼できる 1 施設における所属リンパ節廓清後の再発の危険性と予後に関する検索結果の報告である。